

- 日野郡の白ねぎ産地は高齢化や担い手不足の影響で、縮小傾向にある。
- 当地域での白ねぎ定植はペーパーポット苗の手植えが主流である。
- 手植えは時間を要し、体への負担も大きく栽培を断念する農家もある。
- そこで、過去に導入が検討されながら定着しなかったチェーンポット栽培に改めて注目し、JAと連携しながら普及推進を図った。
- 新規栽培者を中心にチェーンポット導入者が0名(H30)から7名(R2)に増え、産地維持や面積拡大も期待される。

## 具体的な成果

- チェーンポット取り組み者数の増加  
・H30時点で0名だったチェーンポット導入者がR2には7名に増加した。うち4名は新規栽培者であり、チェーンポットの導入が高齢者の作業軽減だけでなく、新規栽培者の取り込みにもつながっている。

表1 チェーンポット導入による生産者、面積の変化

	総栽培面積 (ha)	チェーンポット栽培面積 (ha)	生産者 (戸) ( )内はうち新規栽培者	チェーンポット導入生産者数 (戸)
H30	9.1	0	44(1)	0
R1	9	0.3	44(1)	1
R2	9.3	1.3	44(4)	7

- チェーンポット苗供給体制の確立(R1)  
・日野郡内白ねぎ生産者の多くは苗を購入するため、JAと打ち合わせを重ね、チェーンポット苗の受注体制を整えた。

表2 育苗法の違いと経費

経費 /10a	ペーパーポット (手植え)	チェーンポット (ロングピッチ)
苗代	66,000円	74,800円

## 今後の普及活動に向けて

- 苗供給体制、移植器のレンタルシステムなどの構築をさらに進め、生産者が取り組みやすい技術として定着するよう周知する。
- 栽培実態に合わせた播種粒数の変更と収量性の確認。
- 日野町地域プランと連携した生産者の掘り起こし。

## 普及員の活動内容

- 過去に普及しなかった原因調査(H30)  
・生産者のチェーンポットに対する印象を聞き取るなかでネガティブな意見がでてきた。(太りが悪い、活着が悪いなど)
- 実証栽培の実施(R1)  
・生産者のチェーンポットに対する印象を改善するため、両苗の生育を比較し、大差ないことを確かめた。

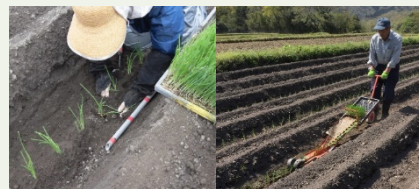


写真1 ペーパーポット手植え作業(慣行法)とチェーンポット定植作業

表3 育苗法の違いと生育

試験区	草丈 (cm)	葉鞘径 (mm)	葉枚数 (枚)
ペーパーポット(手植え)	94.3	20	5.2
チェーンポット (CP303)	93.7	20.5	6.3
チェーンポット (LP303)	90.2	20.8	5.6

- チェーンポット定植実演会(R1、R2)  
・過去に普及しなかった原因として、植え溝の固さや定植器の操作が適切でない可能性が考えられ、そうしたポイントを実演指導を通じて説明した。



- JAとの連携による推進  
・新採のJA営農指導員と現地指導会等を普及所と協力して進め、理解が進んだことがチェーンポット苗の供給体制整備等につながった。